

# 評 価 業 務 規 程

(評 価 等 の 業 務)

株式会社 仙台都市整備センター

## 目次

### 第1章 総則

- 第1条 (趣旨)
- 第2条 (基本方針)
- 第3条 (評価等の業務を行う時間及び休日)
- 第4条 (事務所の所在地)
- 第5条 (評価等の業務を行う区域)
- 第6条 (評価等の業務に係る住宅の種類及び評価等の業務を行う範囲)

### 第2章 設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認の実施方法

- 第7条 (設計住宅性能評価の申請)
- 第8条 (長期使用構造等確認の申請)
- 第9条 (設計住宅性能評価の申請と併せて行う長期使用構造等確認の申請)
- 第10条 (設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認の申請の受理並びに契約)
- 第11条 (設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認)
- 第12条 (設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認の申請の取り下げ)
- 第13条 (設計評価提出図書及び長期使用構造等確認図書の変更)
- 第14条 (設計住宅性能評価書及び長期使用構造等確認書の交付)
- 第15条 (長期使用構造等に係る軽微変更該当証明)

### 第3章 建設住宅性能評価の実施方法

- 第16条 (建設住宅性能評価の申請)
- 第17条 (建設住宅性能評価の申請の受理及び契約)
- 第18条 (建設住宅性能評価)
- 第19条 (建設住宅性能評価における検査)
- 第20条 (建設住宅性能評価の申請の取り下げ)
- 第21条 (建設工事の変更)
- 第22条 (建設住宅性能評価書の交付)

### 第4章 評価員等

- 第23条 (評価員の選任)
- 第24条 (評価員の解任)
- 第25条 (評価員の配置)
- 第26条 (評価員の教育)
- 第27条 (評価等の業務の実施及び管理の体制)
- 第28条 (評価員等の身分証の携帯)
- 第29条 (秘密保持義務)

### 第5章 評価料金等

- 第30条 (評価料金等の収納)
- 第31条 (評価料金等を減額するための要件)
- 第32条 (評価料金等の返還)
- 第33条 (負担金の納付)

## 第6章 雑則

- 第 34 条 (登録の区分等の揭示等)
- 第 35 条 (評価業務規程等の公開)
- 第 36 条 (財務諸表等の備付け)
- 第 37 条 (財務諸表等に係る閲覧等の請求)
- 第 38 条 (帳簿及び書類の保存)
- 第 39 条 (帳簿及び書類の保存及び管理方法)
- 第 40 条 (電子情報処理組織に係る情報の保護)
- 第 41 条 (評価等の業務に関する公正の確保)
- 第 42 条 (損害賠償保険への加入)
- 第 43 条 (事前相談)

附則

別記様式

別表 1

別表 2

## 第1章 総則

(趣旨)

第1条 この評価業務規程(以下「規程」という。)は、株式会社仙台都市整備センター(以下「当機関」という。)が、住宅の品質確保の促進等に関する法律(平成11年法律第81号。以下「法」という。)第5条第1項に規定する登録住宅性能評価機関として行う法第7条第1項に規定する評価の業務(以下単に「評価の業務」という。)及び法第6条の2第3項又は第4項に規定する確認(以下「長期使用構造等確認」という。)の業務(以下これらを総称して「評価等の業務」という。)の実施について、法第16条第1項の規定により必要な事項を定めるものである。

(基本方針)

第2条 評価等の業務は、法、これに基づく命令及び告示並びにこれらに係る通達によるほか、この規程に基づき、公正かつ適確に実施するものとする。

(評価等の業務を行う時間及び休日)

第3条 評価等の業務を行う時間は、次項に定める休日を除き、午前8時30分から午後5時00分までとする。

2 評価等の業務の休日は、次に掲げる日とする。

(1) 土曜日及び日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める国民の祝日

(3) 12月29日から翌年の1月3日までの日

(4) 当機関が特に定める日

3 評価等の業務を行う時間及びその休日については、緊急を要する場合その他正当な事由がある場合又は事前に申請者等との間において評価等の業務を行う日時調整が図られている場合は、前2項の規定によらないことができる。

(事務所の所在地)

第4条 当機関の所在地は、宮城県仙台市青葉区木町通一丁目4番15号とする。

(評価等の業務を行う区域)

第5条 当機関の業務区域は、宮城県全域とする。

(評価等の業務に係る住宅の種類及び評価等の業務を行う範囲)

第6条 当機関は、法第7条第2項各号に掲げる住宅の種別に係る評価の業務について、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則(平成12年建設省令第20号。以下「施行規則」という。)

第9条第1号及び第2号に定める区分に係る評価の業務を行うものとする。

2 当機関は、前項に規定する住宅の種別に係る長期使用構造等確認の業務を行うものとする。

## 第2章 設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認の実施方法

(設計住宅性能評価の申請)

第7条 施行規則第3条第1項に規定する設計住宅性能評価(以下単に「設計住宅性能評価」という。)を申請しようとする者は、当機関に対し、次の各号に掲げる図書を2部提出しなければならないものとする。

- (1) 施行規則第3条第1項に規定する設計住宅性能評価申請書
  - (2) 平成12年建設省告示第1660号第1から第3までに定める図書（施行規則第3条第3項から第6項までの規定により明示することを要しないものとされた事項に係る図書を除く。）
  - (3) 特別評価方法認定を受けた方法を用いて評価されるべき住宅に係る設計住宅性能評価の申請にあっては、特別評価方法認定書の写し（ただし、当機関が当該認定書の写しを有していないことその他の理由により、提出を求める場合に限る。）及び当該認定特別評価方法を用いて評価されるべき事項を記載した書類（必要な場合に限る。）
- 2 前項の規定にかかわらず、施行規則第3条第1項に規定する変更設計住宅性能評価を申請しようとする者は、当機関に対し、前項(1)に掲げる図書、前項(2)及び(3)に掲げる図書のうち変更に係るもの並びに直前の設計住宅性能評価の結果が記載された設計住宅性能評価書又はその写しを2部提出しなければならないものとする。（ただし、当機関において直前の設計住宅性能評価を行っている場合にあっては、設計住宅性能評価書又はその写しを除く。）
- 3 前2項の規定により提出される図書（以下「設計評価提出図書」という。）の受理については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織（当機関の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。）と申請者の使用に係る入出力装置とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）の使用又は磁気ディスク（これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物を含む。以下同じ。）の受理によることができる。この場合、前2項の規定にかかわらず図書の提出は1部でよいものとする。

（長期使用構造等確認の申請）

第8条 長期使用構造等確認（新築住宅に係るものに限る。以下この章において同じ。）を求めようとする者は、当機関に対し、次の各号に掲げる図書を2部提出しなければならないものとする。

- (1) 施行規則第7条の2第1項に規定する長期使用構造等確認申請書
- (2) 令和3年国土交通省告示第1366号第1から第3までに定める図書

2 前項の規定にかかわらず、施行規則第7条の2第1項に規定する変更確認を申請しようとする者は、当機関に対し、前項(1)に掲げる図書、前項(2)に掲げる図書のうち変更に係るもの並びに直前の長期使用構造等確認の結果が記載された確認書（以下この章において「長期使用構造等確認書」という。）又はその写しを2部提出しなければならないものとする。ただし、法第6条の2第4項の住宅性能評価書が交付された住宅で変更確認の申請を行う場合は、長期使用構造等確認書に替えて設計住宅性能評価書又はその写しを提出しなければならないものとする（ただし、当機関において直前の長期使用構造等確認又は設計住宅性能評価を行っている場合にあっては、長期使用構造等確認書又は法第6条の2第4項の住宅性能評価書若しくはそれらの写しを除く。）。

3 前条第3項の規定は、前2項の規定により提出される図書（以下この章において「長期使用構造等確認提出図書」という。）の受理において準用する。

（設計住宅性能評価の申請と併せて行う長期使用構造等確認の申請）

第9条 施行規則第7条の3に規定する住宅性能評価の申請と併せて行う長期使用構造等確認の申請については、施行規則第7条の2第1項に規定する変更確認を申請する場合を除き、この章の規定を適用する。

（設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認の申請の受理並びに契約）

第10条 当機関は、設計住宅性能評価の申請があったときは、次の事項を審査し、当該設計評価提出図書を受理する。

- (1) 申請に係る住宅が、第6条第1項に定める評価の業務を行う範囲に該当するものであること。

- (2) 設計評価提出図書に形式上の不備がないこと。
- (3) 設計評価提出図書に記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
- (4) 設計評価提出図書に記載された内容に明らかな虚偽がないこと。
- 2 当機関は、前項の審査により同項各号に該当しないと認める場合においては、その補正を求めるものとする。
- 3 申請者が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合においては、当機関は、受理できない理由を明らかにするとともに、申請者に当該設計評価提出図書を返還する。
- 4 当機関は、設計住宅性能評価の申請を受理した場合においては、申請者と設計住宅性能評価に係る契約を締結するものとする。
- 5 前項の契約に用いる書面には、少なくとも次に掲げる事項について明記するものとする。
  - (1) 設計住宅性能評価を希望しない性能表示事項がある場合にあっては、その旨及び当該性能表示事項に関すること。
  - (2) 申請者の協力義務に関する事項のうち、申請者は、当機関の求めに応じ、設計住宅性能評価のために必要な情報を当機関に提供しなければならないこと。
  - (3) 評価料金に関する事項のうち、次に掲げるもの。
    - (a) 評価料金の額に関すること。
    - (b) 評価料金の支払期日に関すること。
    - (c) 評価料金の支払方法に関すること。
  - (4) 評価の業務の期日に関する事項のうち、次に掲げるもの
    - (a) 設計住宅性能評価書を交付し、又は設計住宅性能評価書を交付できない旨を通知する期日（以下この項において「業務期日」という。）に関すること。
    - (b) 申請者の非協力、第三者の妨害、天災その他当機関に帰することのできない事由により業務期日から遅延する場合には、申請者との協議の上、期日を変更できること。
  - (5) 契約の解除及び損害賠償に関する事項のうち、次に掲げるもの。
    - (a) 設計住宅性能評価書の交付前に計画が大きく変更された場合においては、設計住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度申請を行わなければならないものとし、この場合においては、元の設計住宅性能評価に係る契約は解除されること。
    - (b) 申請者は、設計住宅性能評価書が交付されるまで、当機関に書面をもって通知することにより当該契約を解除できること。
    - (c) 申請者は、当機関が行うべき評価の業務が業務期日から遅延し、又は遅延することが明らかであることその他の当機関に帰すべき事由により当該契約を解除したときは、既に支払った評価料金の返還を請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
    - (d) 当機関は、申請者の必要な協力が得られないこと、評価料金が支払期日までに支払われないことその他の申請者に帰すべき事由が生じた場合においては、申請者に書面をもって通知することにより当該契約を解除することができること。
    - (e) (d)の規定により契約を解除した場合においては、一定額の評価料金の支払いを請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
  - (6) 当機関が負う責任に関する事項のうち、次に掲げるもの
    - (a) 当該契約が、設計住宅性能評価の対象となる住宅が建築基準法（昭和 25 年法律第 201 号。）その他の法令に適合することについて保証するものではないこと。
    - (b) 当該契約が、設計住宅性能評価の対象となる住宅に瑕疵がないことについて保証するものではないこと。
    - (c) 設計評価提出図書に虚偽があることその他の事由により、適切な設計住宅性能評価を行うことができなかった場合においては、設計住宅性能評価の結果について責任を負わないこと。

6 前5項の規定（前項（1）の規定を除く。）は、長期使用構造等確認の申請の受理並びに契約についても準用する。この場合において、「設計住宅性能評価」とあるのは「長期使用構造等確認」と、「設計評価提出図書」とあるのは、「長期使用構造等確認提出図書」と、「第6条第1項」とあるのは「第6条第2項」と、「評価の業務」とあるのは「長期使用構造等確認の業務」と、「評価料金」とあるのは「確認料金」と、「設計住宅性能評価書」とあるのは「長期使用構造等確認書」と読み替えるものとする。

（設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認）

第11条 当機関は、法、これに基づく命令及び告示並びに「住宅性能評価マニュアル」及び「長期使用構造等確認マニュアル」に従い、設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認を評価員に実施させる。

- 2 評価等の業務に従事する職員のうち評価員以外の者は、評価員の指示に従い、申請の受付け、計画内容の予備審査等の補助的な業務を行う。
- 3 評価員は、設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認のために必要と認める場合においては、申請者又は設計者に対し、必要な図書の閲覧又は提出を求める。
- 4 評価員は、設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認の対象となる住宅が建築基準法その他の法令に違反していると認めるときは、申請者に対してその旨を告げるとともに、必要に応じて設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認を一時中断する。
- 5 前項の規定により設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認を中断した場合においては、当機関は、その是正が図られるまでの間、設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認を再開しない。

（設計住宅性能評価及び長期使用構造等確認の申請の取り下げ）

第12条 申請者は、設計住宅性能評価書の交付前に設計住宅性能評価の申請を取り下げる場合においては、その旨を記載した取下げ届出書を当機関に提出する。

- 2 前項の場合においては、当機関は、設計住宅性能評価を中止し、設計評価提出図書を申請者に返却する。
- 3 前2項の規定は、長期使用構造等確認の申請の取り下げについて準用する。この場合において、「設計住宅性能評価書」とあるのは「長期使用構造等確認書」と、「設計住宅性能評価」とあるのは「長期使用構造等確認」と、「設計評価提出図書」とあるのは、「長期使用構造等確認提出図書」と読み替えるものとする。

（設計評価提出図書及び長期使用構造等確認図書の変更）

第13条 申請者は、設計住宅性能評価書の交付前に設計住宅性能評価の対象となる住宅の計画が変更された場合においては、その旨及び変更の内容について当機関に通知するものとする。

- 2 前項の通知が行われた場合において、当機関が変更の内容が大規模であると認めるときは、申請者は、設計住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度設計住宅性能評価を申請しなければならない。
- 3 前2項の規定は、長期使用構造等確認図書の変更について準用する。この場合において、「設計住宅性能評価書」とあるのは「長期使用構造等確認書」と、「設計住宅性能評価」とあるのは「長期使用構造等確認」と読み替えるものとする。

（設計住宅性能評価書及び長期使用構造等確認書の交付）

第14条 当機関は、設計住宅性能評価が終了した場合においては、次に掲げる場合を除き、速やかに設計住宅性能評価書を交付する。

- （1） 設計評価提出図書に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であるとき。

- (2) 設計評価提出図書に記載された内容が明らかに虚偽であるとき。
  - (3) 設計住宅性能評価の対象となる住宅の計画が建築基準法第 6 条第 1 項の建築基準関係規定（以下単に「建築基準関係規定」という。）に適合しないと認めるとき。
  - (4) 設計住宅性能評価に必要な申請者の協力が得られなかったことその他当機関に帰することのできない事由により、設計住宅性能評価を行えなかったとき。
  - (5) 評価料金が支払期日までに支払われていないとき。
- 2 設計住宅性能評価書の交付番号は、別表 1 に定める方法に従う。
  - 3 当機関は、第 1 項各号に該当するため設計住宅性能評価書を交付しないこととした場合においては、施行規則第 4 条第 2 項及び第 3 項の規定に従い、申請者に対してその旨を書面をもって通知する。
  - 4 設計住宅性能評価書又は前項の図書の交付については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの交付によることができる。
  - 5 前 4 項（ただし、第 1 項第 3 号を除く。）の規定は、長期使用構造等確認において準用する。この場合において、「設計住宅性能評価」とあるのは「長期使用構造等確認」と、「設計住宅性能評価書」とあるのは「長期使用構造等確認書」と、「設計評価提出図書」とあるのは「長期使用構造等確認提出図書」と、「評価料金」とあるのは「確認料金」と、「設計住宅性能評価書を交付しないこととした場合」とあるのは「長期使用構造等でないと確認された場合」と、「施行規則第 4 条第 2 項及び第 3 項の規定」とあるのは「施行規則第 7 条の 4 第 1 項第 2 号の規定」と、「書面をもって通知する」とあるのは「長期使用構造等でない旨の確認書を交付する」と読み替えるものとする。

（長期使用構造等に係る軽微変更該当証明）

第 15 条 第 8 条第 2 項によらず、計画の変更が長期優良住宅の普及の促進に関する法律施行規則（平成 21 年国土交通省令第 3 号）第 7 条第 4 号に規定する軽微な変更（以下この条において単に「軽微な変更」という。）に該当することの証明を求める者は、軽微変更該当証明を依頼することができる。当機関が確認を行い、別に定める様式により、軽微な変更該当する場合は軽微変更該当証明書を、計画の変更が軽微な変更該当しない場合は軽微な変更該当しない旨の通知書を、軽微な変更該当するかどうかを決定することができない場合は軽微な変更該当するかどうか決定できない旨の通知書を、申請者に交付する。

ただし、当機関が法第 6 条の 2 第 3 項による確認書又は第 4 項による住宅性能評価書を交付した住宅については、軽微変更該当証明書又は軽微な変更該当しない旨の通知書のいずれかを交付するものとする。

### 第 3 章 建設住宅性能評価の実施方法

（建設住宅性能評価の申請）

第 16 条 施行規則第 5 条第 1 項に規定する建設住宅性能評価（以下単に「建設住宅性能評価」という。）のうち、新築住宅に係るものを申請しようとする者は、当機関に対し、次の各号（当機関において最後の設計住宅性能評価を行っている場合にあつては、(2) を除く。）に掲げる図書を 2 部提出しなければならないものとする。

- (1) 施行規則第 5 条第 1 項に規定する建設住宅性能評価申請書（新築住宅）
- (2) 設計住宅性能評価に要した図書及び最後に交付された設計住宅性能評価書又はその写し
- (3) 施工状況報告書の様式
- (4) 建築基準法第 6 条第 1 項の規定による確認を要しない住宅以外の住宅に係る申請にあつて

は、同項又は同法第 6 条の 2 第 1 項の確認済証の写し

- 2 前項の規定にかかわらず、施行規則第 5 条第 1 項に規定する変更建設住宅性能評価を申請しようとする者は、当機関に対し、前項 (1) に掲げる図書、前項 (2) 及び (3) に掲げる図書のうち変更に係るもの並びに直前の建設住宅性能評価の結果が記載された建設住宅性能評価書又はその写しを 2 部提出しなければならないものとする。(ただし、当機関において直前の建設住宅性能評価を行っている場合にあっては、建設住宅性能評価書又はその写しを除く。)
- 3 申請者は、第 1 項及び第 2 項に掲げる図書が整っていない場合であっても、当機関に対し建設住宅性能評価の仮申請をすることができる。
- 4 第 1 項及び第 2 項の規定により提出される図書(以下「建設評価提出図書」という。)の受理については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの受理によることができる。この場合、第 1 項及び第 2 項の規定にかかわらず図書の提出は 1 部でよいものとする。

(建設住宅性能評価の申請の受理及び契約)

- 第 17 条 当機関は、建設住宅性能評価の申請があったときは、次の事項を審査し、当該建設評価提出図書を受理する。
- (1) 申請に係る住宅が、第 6 条第 1 項に定める評価の業務を行う範囲に該当するものであること。
  - (2) 形式上の不備がないこと。
  - (3) 記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
  - (4) 記載された内容に明らかな虚偽がないこと。
- 2 当機関は、前項の審査により建設評価提出図書が同項各号に該当しないと認める場合においては、その補正を求めるものとする。
  - 3 申請者が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合においては、当機関は、受理できない理由を明らかにするとともに、申請者に当該建設評価提出図書を返還する。
  - 4 当機関は、建設住宅性能評価の申請を受理した場合においては、申請者と建設住宅性能評価に係る契約を締結する。
  - 5 前項の契約に用いる書面には、少なくとも次に掲げる事項について明記するものとする。
    - (1) 建設住宅性能評価を希望しない性能表示事項がある場合にあっては、その旨及び当該性能表示事項に関する事項
    - (2) 申請者の協力義務に関する事項のうち、次に掲げるもの
      - (a) 申請者は、当機関の求めに応じ、建設住宅性能評価のために必要な情報を当機関に提供しなければならないこと。
      - (b) 申請者は、当機関の評価員が建設住宅性能評価の対象となる建築物並びにその敷地及び工事現場に立ち入ることに協力すること。
    - (3) 評価料金に関する事項のうち、次に掲げるもの
      - (a) 評価料金の額に関すること。
      - (b) 評価料金の支払期日に関すること。
      - (c) 評価料金の支払方法に関すること。
    - (4) 評価等の業務の期日に関する事項のうち、次に掲げるもの
      - (a) 建設住宅性能評価書を交付し、又は建設住宅性能評価書を交付できない旨を通知する期日(以下この項において「業務期日」という。)に関すること。
      - (b) 申請者の非協力、第三者の妨害、天災その他当機関に帰することのできない事由により業務期日から遅延する場合には、申請者との協議の上、期日を変更できること。
      - (c) 申請に係る住宅が、建築基準法第 7 条第 1 項の規定による検査を要しない住宅、同法第 7

条の6第1項第1号若しくは第2号の規定による認定を受けた住宅以外の住宅である場合にあっては、同法第7条第5項又は第7条の2第5項に規定する検査済証の写しを当機関に提出しないときは、業務期日を延期することができること。

(5) 契約の解除及び損害賠償に関する事項のうち、次に掲げるもの

- (a) 建設住宅性能評価書の交付前に建設工事が大きく変更された場合においては、建設住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度申請を行わなければならないものとし、この場合においては、元の建設住宅性能評価に係る契約は解除されること。
- (b) 申請者は、建設住宅性能評価書が交付されるまで、当機関に書面をもって通知することにより当該契約を解除できること。
- (c) 申請者は、当機関が行うべき評価等の業務が業務期日から遅延し、又は遅延することが明らかであることその他の当機関に帰すべき事由により当該契約を解除したときは、既に支払った評価料金の返還を請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
- (d) 当機関は、申請者の必要な協力が得られないこと、評価料金が支払期日までに支払われないことその他の申請者に帰すべき事由が生じた場合においては、申請者に書面をもって通知することにより当該契約を解除することができること。
- (e) (d)の規程により契約を解除した場合においては、一定額の評価料金の支払いを請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。

(6) 当機関が負う責任に関する事項のうち、次に掲げるもの

- (a) 当該契約が、建設住宅性能評価の対象となる住宅が建築基準法その他の法令に適合するか否かについて保証するものではないこと。
- (b) 当該契約が、建設住宅性能評価の対象となる住宅における瑕疵の有無について保証するものではないこと。
- (c) 建設評価提出図書に虚偽があることその他の事由により、適切な建設住宅性能評価を行うことができなかつた場合においては、建設住宅性能評価の結果について責任を負わないこと。

(建設住宅性能評価)

第18条 当機関は、法、これに基づく命令及び告示並びに「住宅性能評価マニュアル」に従い、建設住宅性能評価を評価員に実施させる。

- 2 評価等の業務に従事する職員のうち評価員以外の者は、評価員の指示に従い、申請の受付、検査記録の作成等の補助的な業務を行う。
- 3 評価員は、建設住宅性能評価のために必要と認める場合においては、申請者、設計者、工事施工者、工事監理者、所有者又は管理者に対し、必要な図書の閲覧又は提出を求める。
- 4 評価員は、建設住宅性能評価の対象となる住宅が建築基準法その他の法令に違反していると認めるときは、申請者に対してその旨を告げるとともに、必要に応じて当該建設住宅性能評価を一時中断する。
- 5 第4項の規定により建設住宅性能評価を中断した場合においては、当機関は、その是正が図られるまでの間、建設住宅性能評価を再開しない。

(建設住宅性能評価における検査)

第19条 申請者は、当機関に対し、検査対象工程に係る工事が完了する日又は完了した日を書面により通知しなければならないものとする。

- 2 当機関は、前項の規定による通知を受理したときは、同項に規定する日又はその通知を受理した日のいずれか遅い日から7日以内に、評価員に当該検査時期における検査を行わせる。
- 3 申請者は、検査が行われるまでに、当該検査対象工程に係る工事の実施の状況を記載した施工状況報告書を当機関に提出しなければならないものとする。
- 4 申請者は、検査が行われる場合には、材料等の納品書、工事写真、施工図、品質管理記録その他

の図書を当該工事現場に備えておかなければならないものとする。

- 5 当機関は、検査を行ったときは、遅滞なく、施行規則別記第 10 号様式の検査報告書により建設住宅性能評価の申請者にその旨を報告する。

(建設住宅性能評価の申請の取り下げ)

第 20 条 申請者は、建設住宅性能評価書の交付前に建設住宅性能評価の申請を取り下げる場合においては、その旨を記載した取下げ届出書を当機関に提出するものとする。

- 2 前項の場合においては、当機関は、建設住宅性能評価を中止し、建設評価提出図書を申請者に返却する。

(建設工事の変更)

第 21 条 申請者は、建設住宅性能評価書の交付前に建設住宅性能評価の対象となる住宅の建設工事に変更された場合においては、その旨及び変更の内容について当機関に通知するものとする。

- 2 前項の通知が行われた場合において、当機関が変更の内容が大規模であると認めるときは、申請者は、建設住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度建設住宅性能評価を申請しなければならない。

(建設住宅性能評価書の交付)

第 22 条 当機関は、建設住宅性能評価が終了した場合においては、次の各号に掲げる場合を除き、速やかに建設住宅性能評価書を交付する。

- (1) 建設評価提出図書に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であるとき。
- (2) 建設評価提出図書に記載された内容が明らかに虚偽であるとき。
- (3) 建設住宅性能評価の対象となる住宅の計画が建築基準関係規定に適合しないと認めるとき。
- (4) 申請に係る住宅について建築基準法第 7 条第 5 項又は第 7 条の 2 第 5 項の検査済証が交付されていないとき。ただし、同法第 7 条第 1 項の規定による検査を要しない住宅又は同法第 7 条の 6 第 1 項第 1 号若しくは第 2 号の規定による認定を受けた住宅にあつては、この限りでない。
- (5) 建設住宅性能評価に必要な申請者の協力が得られなかったこと、検査時期に必要な検査を行えなかったことその他当機関に帰することのできない事由により、建設住宅性能評価を行えなかったとき。
- (6) 評価料金が支払期日までに支払われていないとき。

2 第 14 条第 2 項の規定は、建設住宅性能評価書の交付番号について準用する。

3 当機関は、第 1 項各号に該当するため建設住宅性能評価書を交付しないこととした場合においては、施行規則第 7 条第 2 項及び第 3 項の規定に従い、申請者に対してその旨を通知する。

- 4 建設住宅性能評価書又は前項の図書の交付については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの交付によることができる。

## 第 4 章 評価員等

(評価員の選任)

第 23 条 当機関の長は、評価等の業務を実施させるため、法第 13 条に定める要件を満たす者のうちから、評価員を選任するものとする。

- 2 評価員は、職員から選任するほか、職員以外の者に委嘱して選任することができるものとする。
- 3 評価員は、法別表各号の上段に掲げる住宅性能評価を行う住宅の区分に応じ、それぞれ当該各号

の中欄に掲げる者に該当する者がそれぞれ当該各号の下欄に定める数以上となるように毎年度見直しを行うものとするものとする。

#### (評価員の解任)

第 24 条 当機関の長は、評価員が次のいずれかに該当する場合には、その評価員を解任するものとする。

- (1) 業務違反その他評価員としてふさわしくない行為があったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えられないと認めるとき。

#### (評価員の配置)

第 25 条 評価等の業務を実施するため、評価員を当機関に 2 人以上配置する。

- 2 前項の評価員は、公正かつ適確に住宅性能評価及び長期使用構造等確認を行わなければならない。
- 3 当機関は、住宅性能評価及び長期使用構造等確認の申請件数が一時的に増加すること等の事情により、評価等の業務を適切に実施することが困難となった場合にあっては、速やかに、新たな評価員を選任する等の適切な措置を講ずる。

#### (評価員の教育)

第 26 条 評価員の資質を向上するため、評価員に対し、年 1 回、当機関の行う評価等の業務に関する研修を受講させるものとする。

- 2 法、これに基づく命令及び告示の改正等に際しては、評価員に対し、登録講習機関等が行う講習を受講させるものとする。

#### (評価等の業務の実施及び管理の体制)

第 27 条 評価等の業務に従事する職員を、第 25 条第 1 項の規定により配置された評価員を含め、当機関に 2 人以上配置する。

- 2 当機関は、住宅性能評価室部長を法第 9 条第 1 項第 3 号に規定する専任の管理者に任命する。
- 3 専任の管理者は、評価等の業務を統括し、評価等の業務の適正な実施のため、必要かつ十分な措置を講ずるものとし、全ての評価書及び長期使用構造等確認書の交付について責任を有するものとする。

#### (評価員等の身分証の携帯)

第 28 条 評価の業務に従事する職員（評価員を含む。）が、住宅性能評価の対象となる建築物並びにその敷地及び工事現場に立ち入る場合においては、その身分を示す証明書を携帯し、必要に応じて関係者に提示しなければならない。

- 2 前項の身分証明書の様式は、別記様式による。

#### (秘密保持義務)

第 29 条 当機関の役員及びその職員（評価員を含む。）並びにこれらの者であった者は、評価等の業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

## 第 5 章 評価料金等

#### (評価料金等の収納)

第 30 条 申請者は、別表 2 に定める評価料金又は確認料金（以下、「評価料金等」という。）を、現金又は銀行振込みにより納入する。ただし、やむを得ない事由がある場合は、別の収納方法によ

ることができる。

## 2 前項の納入に要する費用は申請者の負担とする。

(評価料金等を減額するための要件)

第 31 条 評価料金等は、次に掲げる場合に減額することができるものとする。

- (1) 住宅型式性能認定を受けた型式に適合する住宅の部分を含む住宅に係る住宅性能評価又は長期使用構造等確認の申請を行うとき。ただし、その申請において住宅型式性能認定書の写し（当機関が当該認定書の写しを有しており、評価の業務の公正かつ適確な実施に支障がないと認めた場合は不要。）が添えられている場合に限る。
- (2) 住宅である認証型式住宅部分等又は住宅の部分である認証型式住宅部分等を含む住宅に係る住宅性能評価又は長期使用構造等確認の申請を行うとき。ただし、その申請において型式住宅部分等製造者等認証書の写し（当機関が当該認証書の写しを有しており、評価の業務の公正かつ適確な実施に支障がないと認めた場合は不要。）が添えられている場合に限る。
- (3) 設計住宅性能評価又は長期使用構造等確認の申請とともに、建築基準法第 6 条の 2 第 1 項の確認又は第 18 条第 4 項の申請を行うとき。
- (4) 建設住宅性能評価の申請とともに、建築基準法第 7 条の 2 第 1 項又は第 18 条第 23 項の検査及び同法第 7 条の 4 第 1 項又は第 18 条第 32 号の検査の申請を行うとき。
- (5) 年間において 2 回以上の住宅性能評価又は長期使用構造等確認の申請が見込めるときで、住宅性能評価又は長期使用構造等確認が効率的に実施できると当機関が判断したとき。
- (6) 一回申請において一戸建て住宅で 2 棟（2 戸）以上又は共同住宅等で 2 棟以上（各棟につき 5 戸以上）の場合で、住宅性能評価又は長期使用構造等確認が効率的に実施できると当機関が判断したとき。
- (7) 共同住宅等で同タイプの住戸が多い場合等、住宅性能評価又は長期使用構造等確認を効率的に実施できると当機関が判断したとき。
- (8) あらかじめ当機関が定める日又は期間内に住宅性能評価又は長期使用構造等確認の申請を行ったとき。
- (9) 一団の住宅の開発等において、現場検査のための移動回数の合理化が図れるようまとまった戸数の建設住宅性能評価の申請を同時に受けたとき。
- (10) あらかじめ当機関の長が指定するソフトウェアを用いて申請書等を作成し、提出するとき。
- (11) 地方公共団体等が行う制度の要件として、住宅性能評価の申請を行うとき。

(評価料金等の返還)

第 32 条 収納した評価料金等は返還しない。ただし、当機関の責に帰すべき事由により評価等の業務が実施できなかった場合には、この限りでない。

(負担金の納付)

第 33 条 当機関は、法第 87 条第 3 項の規定により住宅紛争処理支援センターからなされた通知に従い、負担金を同センターに対して納付する。

## 第 6 章 雑則

(登録の区分等の掲示等)

第 34 条 当機関は、法第 17 条の規定に従い、登録の区分その他の施行規則第 17 条第 1 項各号に掲げる事項について、事務所において公衆に見やすいように掲示するとともにインターネット上に開設した当機関のホームページ (<http://s-toshiseibi.com/>) において公表するものとする。

(評価業務規程等の公開)

第 35 条 当機関は、本規程を評価等の業務を行う事務所で業務時間内に公衆の閲覧に供するとともに、前条に規定するホームページにおいて公表するものとする。

(財務諸表の備付け)

第 36 条 当機関は、毎事業年度経過後三月以内に、その事業年度の財産目録、貸借対照表及び損益計算書又は収支計算書並びに営業報告書又は事業報告書を作成し、五年間事務所に備えて置くものとする。

(財務諸表等に係る閲覧等の請求)

第 37 条 利害関係人は、当機関の業務時間内は、いつでも、次に掲げる請求をすることができる。

- (1) 財務諸表等が書面をもって作成されているときは、当該書面の閲覧又は謄写の請求
- (2) 前号の書面の謄本又は抄本の請求
- (3) 財務諸表等が電磁的記録をもって作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像面に表示する方法により表示したものの閲覧又は謄写の請求
- (4) 前号の電磁的記録に記録された事項を電磁的方法であって次に掲げるもののうち、登録住宅性能評価機関が定めるものにより提供することの請求又は当該事項を記載した書面の交付の請求
  - (a) 登録住宅性能評価機関の使用に係る電子計算機と法第十八条第二項第四号に掲げる請求をした者（以下この条において「請求者」という。）の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であって、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの
  - (b) 磁気ディスクをもって調製するファイルに情報を記録したものを請求者に交付する方法
  - (c) (a)及び(b)に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものとする。

(帳簿及び書類の保存)

第 38 条 帳簿及び書類の保存期間は、次に掲げる文書の種類に応じ、それぞれに掲げるものとする。

- (1) 法第 19 条第 1 項の帳簿 評価の業務の全部を廃止するまで
- (2) 設計住宅性能評価申請書及びその添付図書、設計住宅性能評価に係る契約書その他設計住宅性能評価に要した書類（次号に掲げる書類と同一のものを除く。） 5年間
- (3) 建設住宅性能評価申請書及びその添付図書、工事監理報告書、建設住宅性能評価に係る契約書その他の建設住宅性能評価に要した書類 20年間
- (4) 長期使用構造等確認申請書及びその添付図書、法第 6 条の 2 第 3 項に規定する確認書の写し並びに長期使用構造等確認に係る契約書その他長期使用構造等確認に要した書類 5年間

(帳簿及び書類の保存及び管理の方法)

第 39 条 前条各号に掲げる文書の保存は、審査中にあつては審査のため特に必要がある場合を除き事務所内において、審査終了後は施錠できる室、ロッカー等において、確実であり、かつ、秘密の漏れることのない方法で行う。

- 2 前項の保存は、当該文書を電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録し、当該記録を必要に応じ電子計算機その他の機械を用いて明確に表示することができるようにして、これを行うことができる。

(電子情報処理組織に係る情報の保護)

第 40 条 当機関は、電子情報処理組織による申請の受付及び図書の交付を行う場合においては、情報の保護に係る措置について別に定めることとする。

(評価等の業務に関する公正の確保)

第 41 条 当機関の長、役員又はその職員（評価員を含む。）が、住宅性能評価の申請を自ら行った場合又は代理人として住宅性能評価の申請を行った場合は当該住宅に係る住宅性能評価を行わないものとする。

2 当機関の長、役員又はその職員（評価員を含む。）が、住宅性能評価の申請に係る住宅について次のいずれかに該当する業務を行った場合は当該住宅に係る住宅性能評価を行わないものとする。

(1) 設計に関する業務

(2) 販売又は販売の代理若しくは媒介に関する業務

(3) 建設工事に関する業務

(4) 工事監理に関する業務

3 当機関の長、役員又はその職員（評価員を含む。）がその役員又は職員（過去二年間に役員又は職員であった者を含む。）である者が、次のいずれかに該当する業務を行った場合（当該役員又は職員（評価員を含む。）が当該申請に係る評価等の業務を行う場合に限る。）は当該住宅に係る住宅性能評価を行わないものとする。

(1) 住宅性能評価の申請を自ら行った場合又は代理人として住宅性能評価の申請を行った場合

(2) 住宅性能評価の申請に係る住宅について前項(1)、(2)、(3)または(4)に掲げる業務を行った場合

4 評価員又は機関の役員若しくは職員以外の者は、評価等の業務に従事してはならない。

5 前 4 項の規定は、長期使用構造等確認において準用する。この場合において、「住宅性能評価」とあるのは「長期使用構造等確認」と読み替えるものとする。

(損害賠償保険への加入)

第 42 条 当機関は、評価等の業務に関し支払うことのある損害賠償のための保険契約（年間保険金額 1 億円で、住宅性能評価業務については地震その他の自然現象によって明らかとなった瑕疵についての補償が免責事項となっていないもの）を締結するものとする。

(事前相談)

第 43 条 申請者は、住宅性能評価及び長期使用構造等確認の申請に先立ち、当機関に相談をすることができる。この場合においては、当機関は、誠実かつ公正に対応するものとする。

## 附則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 26 年 5 月 6 日から施行する。

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 27 年 5 月 29 日から施行する。

この規程は、平成 27 年 6 月 25 日から施行する。

この規定は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

この規定は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

この規定は、令和 3 年 9 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 4 年 2 月 20 日から施行する。

この規程は、令和 4 年 10 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

別記様式 身分証明書 (評価員)

年 月 日 交付第 号 (有効期限 ヶ月)	
身 分 証 明 書 (評価員)	
氏 名 生年月日 資 格	写 真
上記の者は、住宅品質確保の促進等に関する法律第 13 条に基づき (株)仙台都市整備センターが選任した評価員であることを証明する。	
(登録性能評価機関) 株式会社 仙台都市整備センター	

別記様式 身分証明書

年 月 日 交付第 号 (有効期限 ヶ月)	
身 分 証 明 書	
氏 名 生年月日 資 格	写 真
上記の者は、(株)仙台都市整備センターの職員であり、評価の業務に従事する 職員であることを証明する。	
(登録性能評価機関) 株式会社 仙台都市整備センター	

別記様式

別記様式

別記様式

軽微な変更該当するかどうかを決定することができない旨の通知書

第 号

建築主 様

登録住宅性能評価機関 印

別添の軽微変更該当証明申請書は、下記の理由により長期優良住宅の普及の促進に関する法律第8条第1項及び長期優良住宅の普及の促進に関する法律施行規則第7条第4号に規定する軽微な変更該当するかどうかを決定することができないので、通知します。

記

(理由)

(備考)

別表 1

(住宅性能評価)

交付番号は、16桁の数字を用い、次のとおり表すものとする。

〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇-〇-〇-〇〇〇〇〇

1～3桁目	登録住宅性能評価機関の登録番号
4～5桁目	登録住宅性能評価機関の事務所毎に付する番号
6～9桁目	評価書交付日の西暦
10桁目	1：設計住宅性能評価 2：建設住宅性能評価（新築住宅） 4：設計住宅性能評価とあわせて長期確認
11桁目	1：一戸建ての住宅 2：共同住宅等
12～16桁目	通し番号（11桁目までの数字の並びの別に応じ、00001から順に付するものとする。）

(長期確認)

交付番号は、16桁の数字を用い、次のとおり表すものとする。

〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇-〇-〇-〇〇〇〇〇

1～3桁目	登録住宅性能評価機関の登録番号
4～5桁目	登録住宅性能評価機関の事務所毎に付する番号
6～9桁目	確認書交付日の西暦
10桁目	1：新築
11桁目	1：一戸建ての住宅 2：共同住宅等
12～16桁目	通し番号（11桁目までの数字の並びの別に応じ、00001から順に付するものとする。）

**別表2 住宅性能評価又は長期使用構造等確認 申請料金**

申請料金については消費込金額とする。(表中金額についての単位は円とする)

**1. 一戸建て住宅の住宅性能評価申請料金**

設計住宅性能評価: 基本料金+加算額(1)又は(2)+選択事項加算料金(3)

建設住宅性能評価: 基本料金+加算額(1)又は(2)+選択事項加算料金(3)+検査が遠隔地の場合の加算額(5)

(1) 基本額(必須評価事項のみ)+加算額

設計	基本額	300㎡以内のもの	27,500	
		300㎡を超えるもの	49,500	
	加算額	・構造の安定に関する表示事項で、1項目でも耐震等級2又は3への適合を行う場合	評価基準 <sup>※1</sup> の計算で適合を行う場合	5,500
			建築基準法に基づく構造計算による場合	11,000
		・設計住宅性能評価申請の中で、長期使用構造等確認を行う場合		5,500
		・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行う場合	外皮性能を性能基準 <sup>※2</sup> で適合させる場合	3,300
当機関で交付した省エネ適判 <sup>※5</sup> の申請内容と同じ内容で外皮性能基準を適合させる場合	0			
建設	基本額	300㎡以内のもの	112,200	
		300㎡を超えるもの	148,500	
	加算額	・5-1断熱等性能等級及び5-2一次エネルギー消費量性能等級で等級1以外で表示を行う場合	省エネ基準の適合について併願している建築基準法の完了検査の中で確認を行わない場合	3,300

(2) 基本料金(必須評価事項のみ)+加算額:住宅型式性能認定及び型式住宅部分等製造者認証を受けた住宅の場合

設計	基本額	300㎡以内のもの	22,000	
		300㎡を超えるもの	44,000	
	加算額	・設計住宅性能評価申請の中で、長期使用構造等確認を行う場合		5,500
		・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行う場合	外皮性能を性能基準 <sup>※2</sup> で適合させる場合	3,300
当機関で交付した省エネ適判 <sup>※5</sup> の申請内容と同じ内容で外皮性能基準を適合させる場合			0	
建設	基本額	300㎡以内のもの	61,700	
		300㎡を超えるもの	89,100	
	加算額	・5-1断熱等性能等級及び5-2一次エネルギー消費量性能等級で等級1以外で表示を行う場合	省エネ基準の適合について併願している建築基準法の完了検査の中で確認を行わない場合	3,300

(3) 選択事項加算料金(設計、建設共)

選択性能表示事項	加算額
・構造の安定に関すること (評価方法基準 1-2、1-4、1-5のうち1項目以上選択)	・左記1分野ごと1の選択毎に1,100円を加算する。ただし、合計金額は5,500円を上限とする。
・火災の安全に関すること (評価方法基準 2-1、2-4、2-5、2-6のうち1項目以上選択)	
・空気環境に関すること (評価方法基準 6-1、6-2、のうち1項目以上選択)	
・光・視環境に関すること (評価方法基準 7-1、7-2のうち1項目以上選択)	
・音環境に関すること (評価方法基準 8-4)	
・高齢者等への配慮に関すること (評価方法基準 9-1)	
・防犯に関すること (評価方法基準 10-1)	
・地盤の液状化に関する情報提供	
※・(建設のみ) 空気環境に関すること (評価方法基準 6-3) 室内空気中の化学物質の濃度等	・別途見積りとする。

(4) 建築基準法に基づく確認および検査と併せて住宅性能評価の申請を行う場合の申請料金減算額

	床面積合計	減算額
設計	300㎡以内のもの	2,200
	300㎡を超えるもの	5,500
建設	300㎡以内のもの	10,450×N
	300㎡を超えるもの	13,200×N
この表でNは併願申請する建築基準法に基づく中間検査・完了検査を行う回数を表す。		

(5) 建設評価における加算額

	加算額
・当機関以外で設計住宅性能評価を行った場合	33,000
・検査が遠隔地における場合	4を参照のこと

別表2の中で※1から※5は下記の通り

※1 評価基準とは、評価方法基準(平成13年国土交通省告示第1347号)第5 1.1-1(3)ホに規定される基準

※2 性能基準とは建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令(平成二十八年経済産業省・国土交通省令第一号)第一条第二号イ(1)に規定される基準

※3 住宅仕様基準とは建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令(平成二十八年経済産業省・国土交通省令第一号)第一条第二号イ(2)に規定される基準

※4 誘導仕様基準とは建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令(平成二十八年経済産業省・国土交通省令第一号)第十条第二号イ(2)に規定される基準

※5 省エネ適判とは、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律第十一条第1項に規定される建築物エネルギー消費性能適合性判定をいう。

## 2. 共同住宅等の住宅性能評価申請料金

設計住宅性能評価:住棟の基本料金(1)又は(2)+(一住戸当たり基本料金(3)+  
選択事項加算料金(4))×住戸数

建設住宅性能評価:住棟の基本料金(1)又は(2)+(一住戸当たり基本料金(3)+  
選択事項加算料金(4))×住戸数+検査が遠隔地の場合の加算額(6)

※ただし、併用住宅等で1住戸のみの場合(他住戸無)については、一戸建ての住宅の申請料金を適用できるものとする。

### (1) 住棟の基本料金(必須評価事項のみ)

	床面積合計	基本料金額
設計	200㎡以内のもの	49,500
	200㎡を超え、500㎡以内のもの	52,800
	500㎡を超え、1,000㎡以内のもの	66,000
	1,000㎡を超え、2,000㎡以内のもの	132,000
	2,000㎡を超え、3,000㎡以内のもの	170,500
	3,000㎡を超え、5,000㎡以内のもの	200,200
	5,000㎡を超え、7,500㎡以内のもの	242,000
	7,500㎡を超え、10,000㎡以内のもの	275,000
	10,000㎡を超え、25,000㎡以内のもの	363,000
	25,000㎡を超え、50,000㎡以内のもの	495,000
	50,000㎡を超え、100,000㎡以内のもの	825,000
	100,000㎡を超えるもの	935,000
	・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行い外皮性能を性能基準 <sup>※2</sup> で行う場合	上記基本料金額の10%を加算するものとする
	・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行い外皮性能を住宅仕様基準 <sup>※3</sup> 又は誘導仕様基準 <sup>※4</sup> で行う場合	上記基本料金額の5%を加算するものとする
・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行い当機関で交付した省エネ適判 <sup>※5</sup> の申請内容と同じ内容で外皮性能を適合させる場合	加算額 0	
建設	200㎡以内のもの	44,000×N
	200㎡を超え、500㎡以内のもの	47,300×N
	500㎡を超え、1,000㎡以内のもの	90,200×N
	1,000㎡を超え、2,000㎡以内のもの	112,200×N
	2,000㎡を超え、3,000㎡以内のもの	118,800×N
	3,000㎡を超え、5,000㎡以内のもの	125,400×N
	5,000㎡を超え、7,500㎡以内のもの	132,000×N
	7,500㎡を超え、10,000㎡以内のもの	143,000×N
	10,000㎡を超え、25,000㎡以内のもの	198,000×N
	25,000㎡を超え、50,000㎡以内のもの	253,000×N
	50,000㎡を超え、100,000㎡以内のもの	495,000×N
	100,000㎡を超えるもの	572,000×N
※この表で、Nは検査を行う回数を表す。		
・5-2一次エネルギー消費量性能等級で等級1以外で表示を行う場合	省エネ基準の適合について併願している建築基準法の完了検査の中で確認を行わない場合は、検査回数を乗じない金額の10%を加算するものとする。	

(2) 基本料金(必須評価事項のみ):住宅型式性能認定及び型式住宅部分等製造者認証を受けた住宅の場合

	床面積合計	基本料金額
設計	200㎡以内のもの	44,000
	200㎡を超え、500㎡以内のもの	46,200
	500㎡を超え、1000㎡以内のもの	58,300
	1,000㎡を超えるもの	110,000
	・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行い外皮性能を性能基準 <sup>※2</sup> で行う場合	上記基本料金額の10%を加算するものとする
	・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行い外皮性能を住宅仕様基準 <sup>※3</sup> 又は誘導仕様基準 <sup>※4</sup> で行う場合	上記基本料金額の5%を加算するものとする
	・5-1断熱等性能等級を等級1以外で表示を行い当機関で交付した省エネ適判 <sup>※5</sup> の申請内容と同じ内容で外皮性能を適合させる場合	加算額 0
建設	200㎡以内のもの	33,000×N
	200㎡を超え、500㎡以内のもの	37,400×N
	500㎡を超え、1000㎡以内のもの	77,000×N
	1,000㎡を超えるもの	93,500×N
	※この表で、Nは検査を行う回数を表す。	
	・5-2一次エネルギー消費量性能等級で等級1以外で表示を行う場合	省エネ基準の適合について併願している建築基準法の完了検査の中で確認を行わない場合は、検査回数を乗じない金額の10%を加算するものとする。

(3) 一住戸あたりの基本料金

設計住宅性能評価	5,500
建設住宅性能評価	7,700

(4) 選択事項加算料金(設計、建設共)

選択性能表示事項	一住戸当たりへの加算額
・構造の安定に関すること (評価方法基準 1-2、1-4、1-5のうち1項目以上選択)	・左記1分野ごと1の選択 毎に1,100円を加算する。 ただし、合計金額は 6,600円を上限とする。
・火災の安全に関すること (評価方法基準 2-1~2-7のうち1項目以上選択)	
・維持管理・更新への配慮に関すること (評価方法基準4-4)	
・空気環境に関すること (評価方法基準 6-1、6-2、のうち1項目以上選択)	
・光・視環境に関すること (評価方法基準 7-1、7-2のうち1項目以上選択)	
・音環境に関すること (評価方法基準 8-1~8-4のうち1項目以上選択)	
・高齢者等への配慮に関すること (評価方法基準 9-1、9-2のうち1項目以上選択)	
・防犯に関すること (評価方法基準 10-1)	
・音環境に関すること (評価方法基準 8-1~8-4のうち1項目以上選択)	
・地盤の液状化に関する情報提供	・一申請につき3,300
※・(建設のみ) 空気環境に関すること (評価方法基準 6-3) 室内空気中の化学物質の濃度等	・別途見積りとする。

(5) 建築基準法に基づく確認および検査と併せて住宅性能評価の申請を行う場合の申請料金減算額

	床面積合計	基本料金からの減算額
設計	500㎡以内のもの	5,500
	500㎡を超え、1,000㎡以内のもの	6,600
	1,000㎡を超え、2,000㎡以内のもの	13,200
	2,000㎡を超え、3,000㎡以内のもの	16,500
	3,000㎡を超え、5,000㎡以内のもの	22,000
	5,000㎡を超え、10,000㎡以内のもの	27,500
	10,000㎡を超え、25,000㎡以内のもの	41,800
	25,000㎡を超え、50,000㎡以内のもの	85,800
	50,000㎡を超え、100,000㎡以内のもの	157,300
	100,000㎡を超えるもの	188,100
建設	500㎡以内のもの	14,300×N
	500㎡を超え、1,000㎡以内のもの	15,400×N
	1,000㎡を超え、2,000㎡以内のもの	17,600×N
	2,000㎡を超え、3,000㎡以内のもの	19,800×N
	3,000㎡を超え、5,000㎡以内のもの	22,000×N
	5,000㎡を超え、10,000㎡以内のもの	27,500×N
	10,000㎡を超え、25,000㎡以内のもの	48,400×N
	25,000㎡を超え、50,000㎡以内のもの	95,700×N
	50,000㎡を超え、100,000㎡以内のもの	115,500×N
	100,000㎡を超えるもの	140,800×N
この表でNは併願申請する建築基準法に基づく中間検査・完了検査を行う回数を表す。		

(6) 建設評価における加算額

・当機関以外で設計住宅性能評価を行った場合	
床面積合計	基本料金への加算額
200㎡以内のもの	35,200 × N
200㎡を超え、500㎡以内のもの	38,500 × N
500㎡を超え、1,000㎡以内のもの	72,600 × N
1,000㎡を超え、2,000㎡以内のもの	90,200 × N
2,000㎡を超え、3,000㎡以内のもの	93,500 × N
3,000㎡を超え、5,000㎡以内のもの	101,200 × N
5,000㎡を超え、7,500㎡以内のもの	105,600 × N
7,500㎡を超え、10,000㎡以内のもの	115,500 × N
10,000㎡を超え、25,000㎡以内のもの	159,500 × N
25,000㎡を超え、50,000㎡以内のもの	203,500 × N
50,000㎡を超え、100,000㎡以内のもの	396,000 × N
100,000㎡を超えるもの	462,000 × N
※この表で、Nは検査を行う回数を表す。	
一住戸あたりの加算額	5,500
・検査が遠隔地における場合	3を参照のこと

(7) 設計住宅性能評価申請の中で長期使用構造等確認を申請する場合の申請料金は

3.の長期使用構造等確認申請料金を適用するものとする。

### 3. 長期使用構造等確認申請料金

(1) 一戸建ての住宅(2)の住宅以外)

床面積合計	申請料金額
300㎡以内のもの	38,500
300㎡を超えるもの	60,500
※建築基準法に基づく確認申請併願の場合	
300㎡以内のもの	36,300
300㎡を超えるもの	55,000
※断熱等性能等級の計算方法による加算額	
外皮性能を性能基準 <sup>※2</sup> で行う場合	3,300
当機関で交付した省エネ適判 <sup>※5</sup> の申請内容と同じ内容で外皮性能基準を適合させる場合	0

(2) 一戸建ての住宅(住宅型式性能認定及び型式住宅部分等製造者認証を受けた住宅の場合)

床面積合計	申請料金額
300㎡以内のもの	27,500
300㎡を超えるもの	49,500
※建築基準法に基づく確認申請併願の場合	
300㎡以内のもの	25,300
300㎡を超えるもの	44,000
※断熱等性能等級の計算方法による加算額	
外皮性能を性能基準 <sup>※2</sup> で行う場合	3,300
当機関で交付した省エネ適判 <sup>※5</sup> の申請内容と同じ内容で外皮性能基準を適合させる場合	0

(3) 共同住宅等 基本料金+(1戸当たり料金×住戸数)

床面積合計	基本料金	1戸当たり料金
500㎡以内のもの	52,250	10,450
500㎡を超え、2,000㎡以内のもの	104,500	
2,000㎡を超え、5,000㎡以内のもの	157,300	
5,000㎡を超え、7,500㎡以内のもの	209,550	
7,500㎡を超え、10,000㎡以内のもの	261,800	
10,000㎡を超えるもの	別途見積りとする。	
※断熱等性能等級の計算方法による加算額		
外皮性能を性能基準 <sup>※2</sup> で行う場合	上記基本料金額の10%を加算するものとする	
外皮性能を住宅仕様基準 <sup>※3</sup> 又は誘導仕様基準 <sup>※4</sup> で行う場合	上記基本料金額の5%を加算するものとする	
当機関で交付した省エネ適判 <sup>※5</sup> の申請内容と同じ内容で外皮性能基準を適合させる場合	0	

※1 当機関にて建築基準法に基づく確認申請を併願申請した場合は、基本料金より5,500円減額するものとする。  
 ※2 共同住宅等で取扱う1住戸のみの併用住宅の場合は、一戸建ての住宅の申請料金を該当するものとする。

(4) 長期使用構造等確認における計画変更申請料

当機関において長期使用構造等確認を行った物件の変更	5.計画変更にかかる場合の申請料金を適用する。
当機関以外において長期使用構造等確認を行った物件の変更	物件に応じて上記(1)～(3)の料金を適用する。

(5) 長期使用構造等に係る軽微変更該当証明申請料金

当機関において長期使用構造等確認を行った物件の変更	一戸建ての住宅	5,500
	共同住宅等	1棟単位 5,500 又は変更する住戸×5,500とする。
当機関以外において長期使用構造等確認を行った物件の変更	一戸建ての住宅・共同住宅等 共	物件に応じて上記(1)～(3)の料金を適用する。

(6) 設計住宅性能評価の内容を用いての同一物件における長期使用構造等確認の併願申請について

長期使用構造等確認申請料は、¥5,500とする。

(7) 長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査適合証を交付した物件についての変更に係る申請については、

当機関が技術的審査適合証を交付した物件に限り取扱う。申請料は下記のとおりとする。

長期使用構造等確認申請	5.計画変更にかかる場合の申請料金を適用する。
設計住宅性能評価申請	

#### 4. 建設評価における検査が遠隔地の場合の加算額

遠隔地の区域	基本料金への加算額
気仙沼市、栗原市	9,900×N
・この表で、Nは検査を行う回数を表す。 ・建築基準法に基づく中間検査・完了検査と併せて行う検査の場合には、上記料金は加算しないものとする。	

#### 5. 計画変更にかかる場合の申請料金について

(1) 一戸建ての住宅

当初料金の50%の料金とする。

(2) 共同住宅等

住棟の当初の基本料金の30%+

(一住戸あたりの当初料金(選択事項加算料金を含む)の50%×変更する住戸数)とする。

※当機関以外で交付された評価書又は長期使用構造等確認書の物件の変更については、当初の料金を該当させるものとする。

#### 6. 第31条における評価料金等減額率について

A 欄	第31条(1)	別表2 1.(2)、2.(2)又は3.(2)に表記
	第31条(2)	
B 欄	第31条(3)	別表2 1.(4)、2.(5)又は3.(1)(2)(3)に表記
	第31条(4)	
C 欄	第31条(5)	減額率上限30%
	第31条(6)	減額率上限40%
	第31条(7)	減額率上限40%
	第31条(8)	減額率上限10%
	第31条(9)	減額率上限30%
	第31条(10)	減額率上限10%
	第31条(11)	減額率上限10%

※1 A欄、B欄、C欄について、それぞれ併用できるものとする。

※2 C欄において複数の要件に該当する場合は、その中で最大の減額上限率を採用するものとする。

#### 7. 施行規則第四条第4項及び第七条第4項及び5項、又は第七の四第2項の規定に基づく再交付に係る料金について

・再交付を申請する1住戸につき1,100円(税込)とする。